

特集 ■ 高齢障害者の機能維持

介護保険制度改定の経過で、高齢障害者の介護予防の重要性が指摘されて以来、さまざまな介護予防の試みがなされている。しかし、その効果や問題点については、まだ十分な結論が得られていないように思われる。今回は介護予防の視点から、高齢障害者の特性や体力の推移、介護予防の取り組みなどを、現時点での実態について特集した。各先生方が、ご自分の研究や活動を背景にして巧みに執筆くださったので、非常に参考になる特集ができたと考えている。

高齢障害者の心理社会的問題に留意を！（大隈秀信氏，731 頁）

高齢者の疾患像について、脳血管障害では再発、頸髄損傷では変性性骨疾患の合併が多いこと、中心性脊髄損傷の頻度が高いことが問題であると指摘している。さらに高齢障害者の介護、介護予防でとくに大切なことは、心理社会的状況の把握と対応であることを強調している。これらの指摘に沿った症例が呈示され、わかりやすい内容となっている。

トレーニング・スポーツで高齢者の体力向上を！（武藤里佳氏ら，737 頁）

脳卒中、脊髄損傷、下肢切断、脳性麻痺、知的障害者などの体力の継続的変化を総説し、とくに全身持久性の低下が、30 歳代以降に著明になることを強調している。再発予防などの健康管理、歩行能力維持などのための補装具チェック、環境調整・社会資源の導入の重要性を指摘している。維持期リハビリテーションを進めるうえで非常に参考となる論文である。

高齢者筋力トレーニングは効果的！（寺門厚彦氏ら，743 頁）

水中運動による高齢者筋力トレーニングに関する著者らの研究をまとめている。運動耐容能、下肢筋力などには機能維持効果、バランス機能、動作俊敏性には改善効果がみられ、QOL についてはトレーニング前より「生き生きと活力に溢れた」状況となった。これまで適切な評価が少なかった高齢者筋力トレーニングについて、貴重なデータが呈示されている。

「仮の要介護状態」へ積極的に対応を！（山田 深氏，749 頁）

要介護状態にあっても、適切なリハビリテーションで ADL などが改善する「仮の要介護状態」は著者らの作った概念であるが、そのスクリーニング、対応がまとめられている。実際の訪問リハビリテーションでの種々の改善効果を示し、「仮の要介護状態」への対応の必要性、地域の限られたリハビリテーション資源を効率的に配分していくことの重要性を指摘している。

地域に合った、住民参加の介護予防を！（柳 尚夫氏，755 頁）

介護予防の課題に、システムの一貫性のなさ、新予防給付の介護予防効果の少なさ、費用対効果の悪い特定高齢者施策、一般高齢者施策の誤解、制度設計の悪さ、保険者の主体性のなさ、などを挙げている。いずれも現状を的確に捉えている。そのうえで、地域の実態に合った介護予防、一般高齢者施策での住民主体の介護予防活動などへの強い期待が述べられている。